

公表：平成31年2月15日

事業所名 児童デイサービスセンターおひさま・おひさま2

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			行事の際、狭いと感じることがあります。また、人数が多い際に更衣室が込み合うことが時折ある為、順番等工夫していきます。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		定期的に専門職の先生に来て頂いています。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○		子どもの状況に合わせて対応していますが、療育の見直しを定期的に行い、絵カード等で構造化された環境を整えていきたいです。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		日々の振り返りや月1回の会議を通して見直しを行っています。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			現在実施中です。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		平成31年2月ホームページ公開予定です。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		常に外部研修や内部研修に参加できるようにしています。専門職の先生からの意見も取り入れながら学ぶ機会を設けています。	
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			作成、面談が遅れることもありますが、その都度見直し定期的に行えるようにしています。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		SDQを活用し、アセスメントを行っています。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童発達支援管理責任者を中心に検討会議を行い作成しています。	

適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○				
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		素案を元に参加スタッフ全員で行っています。		
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		月の計画で活動内容が固定化されないようにしています。		
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○				
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日、活動前に打ち合わせ、ケースカンファレンスを行っています。		
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等共有している	○		活動終了後に保護者との振り返りを行い、その後スタッフ間でも振り返りを行っています。		
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個人記録、全体記録をとっています。		
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				
	関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	○			
		㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関係機関との会議を通して、連携を図れる体制を作っています。	
㉓		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					
㉔		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					
㉕		移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		年2回幼保連絡会を行い連携を図っています。		
㉖		移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		移行支援シートと併せて、就学先が決定した後連絡会を行い連携を図っています。		
㉗		他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		外部研修や公開療育等を通して、連携を図っています。		

	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		同法人の保育園の園庭を利用した活動や行事を行っています。保育園や幼稚園、認定こども園に9割の子どもが併行通園しています。	
	㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		理事長が子ども・子育て会議の委員、管理者が子ども部会の委員になっています。	
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		基本家族通園を行っており、活動終了後保護者と振り返りを行っています。	
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		基本家族通園で活動し、年4回の懇談会を通して講師を招いての勉強会や年3回の療育相談の実施、活動後に振り返りの時間を設けています。	
	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明を行っています。	
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		日々の振り返りや個別支援計画を通して、話す機会を設けています。希望がありましたら、随時面談を行っています。	
保護者への説明等	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			現在、父母の会は設立していませんが、分離や懇談会を通して保護者同士のコミュニケーションが図れるように心掛けています。
	㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ホームページ等でお知らせしています。25日までにはアップできるように心掛けています。	
	㉚	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			
	㉛	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			

	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		行事の際に地域の方の協力を得ています。今後も日頃からのコミュニケーションを大切にしていきたいです。
非常時の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		掲示等、周知しています。	
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月避難訓練を実施しています。	
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師の指示所の元除去食を提供しています。	
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			外傷記録簿内に記載し、朝礼で伝達を行うことで、再発防止に努めています。
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		必要に応じ、関係機関と連携を図っています。	
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			基本、身体拘束は行っていません。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価